

岡山米子線 20th(はたち)メモリアル事業

～中国横断自動車道岡山米子線の早期全線 4 車線化の実現を目指して～

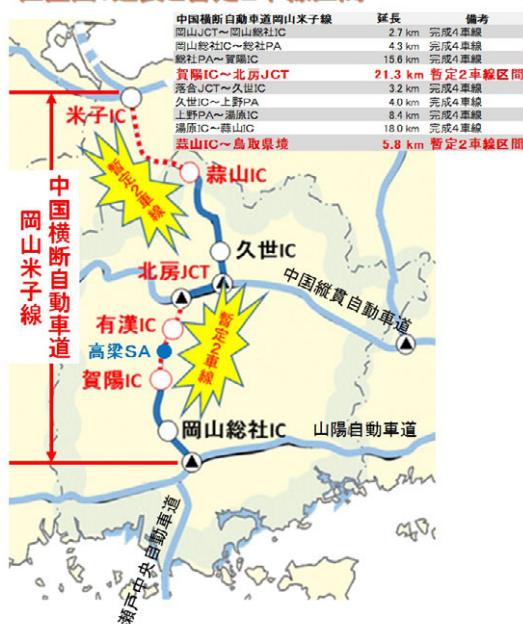
岡山県土木部道路建設課

はじめに

岡山県は、山陽自動車道、瀬戸中央自動車道、中国横断自動車道岡山米子線などの高速交通網の整備により、中四国地方のクロスポイントとして、産業、経済、文化等が大きく振興・発展してきました。

そのうち岡山米子線は、全線開通から今年度で 20 周年の節目を迎えますが、未だ暫定 2 車線区間が残っており、多くの課題を抱えています。そのため、早期全線 4 車線化に向けた機運の盛り上げや利用促進を図ることを目的として、本県では重点施策として「岡山米子線 20th (はたち) メモリアル事業」を実施しており、ここではその取り組みについて、ご紹介します。

位置図: 延長と暫定 2 車線区間



岡山米子線の位置図

1. 岡山米子線の現状と課題

中国横断自動車道岡山米子線は、日本海から瀬戸内海そして太平洋を結び、本州四国連絡道路、四国横断自動車道と一体となった基幹的な南北軸を形成し、また、そのうちの岡山自動車道は、国土の大動脈である山陽自動車道と中国縦貫自動車道を直結する極めて重要な路線です。

本路線は、平成 9 年 3 月の全線開通以降、中四国のクロスポイントとしての本県の産業、経済、文化等の振興・発展に大きく寄与してきたところですが、未だ賀陽 IC ～北房 JCT 間、蒜山 IC ～米子 IC 間は暫定 2 車線であり、4 車線区間に比べ渋滞による速度低下が著しく、また、事故、災害等による通行止めや通行規制が発生する可能性も高いため、安全性、定時性、高速性等の確保の面から本来の機能を十分発揮しているとは言い難く、企業活動、物流、観光など様々な分野における成長に影響を及ぼ



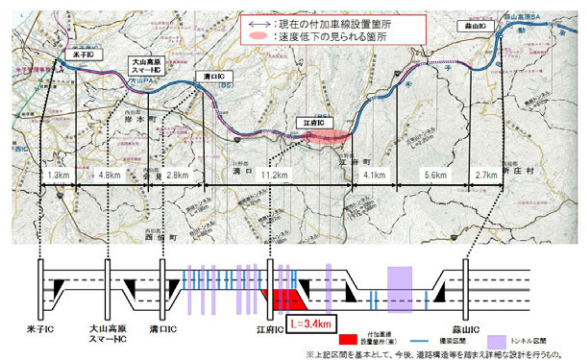
今年のゴールデンウィーク渋滞状況（賀陽 IC 北側）

本路線でこれまでに4車線化された岡山総社IC付近においては、大規模な流通施設が整備され企業進出数が現在も増加しているなど、4車線化による地域経済への大きな波及効果があることは明らかなです。今後の人口減少問題を克服し、将来にわたり活力ある社会を維持するためには、企業進出・雇用増大・観光振興など、効率的な人流・物流による生産性向上に寄与する本路線の4車線化が急務であり、経済界等からも早期の4車線化を望む声が高まっています。



また、昨年３月には、岡山自動車道の高梁SAが、発生が懸念されている南海トラフの巨大地震発生時における警察庁と消防庁の広域進出拠点に指定されるなど、国土強靱化のためにも重要性は一層高まっています。

このことは、4車線化実現に向けた大きな前進であると考えており、付加車線の早期整備はもとより、全線4車線化の早期実現を今後とも強く訴えていく必要があります。



2 道路行政セミナー 2016.9

2. 「岡山米子線 20th（はたち）メモリアル事業」の概要

岡山米子線の全線開通により、日本海と太平洋が高速道路でつながって今年度で20周年となることから、4車線化に向けた機運の盛り上げと更なる利用促進を図るため、県の重要施策として「岡山米子線 20th（はたち）メモリアル事業」を今年度から実施しています。

主な事業内容は、次のとおりです。

- (1) シンポジウム、総決起大会
- (2) 利用促進キャンペーン
- (3) 20周年記念イベント
- (4) 情報発信

それぞれについて、具体的な取り組み事例を紹介します。

(1) シンポジウム、総決起大会

平成28年5月17日（火）に、「中国横断自動車道岡山米子線の4車線化シンポジウム（主催：岡山県、中国横断自動車道4車線化促進岡山県期成会）」を開催しました。

「4車線化の早期実現を目指す国会議員の会」、「4車線化促進岡山県議会連盟」、「4車線化促進市議会連盟」、岡山・鳥取の沿線市町村長、沿線市議会をはじめ、国土交通省や西日本高速道路（株）に一般参加者も含め総勢約170名の参加があり、国土交通省中国地方整備局佐々木道路部長による基調講演やパネルディスカッションなどを行いました。

地元観光協会や消防関係者も参加したパネルディスカッションでは、「熊本地震で4車線化の必要性が再認識された」、「渋滞による観光客の時間損失は消費に直結する」、「救急搬送の遅れで命の危険性を感じる事がたびたびある」など、現場の切実な意見が交わされました。

伊原木岡山県知事を先頭に大いに盛り上がり、参加者が一体となって4車線化の必要性をしっかりと訴えていくことが再確認されました。

中国横断自動車道岡山米子線 4車線化シンポジウムを開催！ H28.5.17(火) 岡山県

平成28年5月17日(火)に、中国横断自動車道岡山米子線の4車線化シンポジウム（主催：岡山県、中国横断自動車道4車線化促進岡山県期成会）を開催しました。
「4車線化の早期実現を目指す国会議員の会」、「4車線化促進岡山県議会連盟」、「4車線化促進市議会連盟」、岡山・鳥取の沿線市町村長、沿線市議会をはじめ、国土交通省や西日本高速道路（株）に一般参加者も含め総勢約170名の参加があり、国土交通省中国地方整備局 佐々木道路部長の基調講演やパネルディスカッションなどを行い、4車線化に向けた機運が盛り上がりました。

挨拶・祝辞    伊原木 隆太 岡山県知事 小野 泰弘 県議会議員連盟 会長 渡辺 雅爾 市議会議員連盟 副会長(米子市議会議員)	基調講演  佐々木 政彦 中国地方整備局 道路部長	パネルディスカッション       阿部 宏史 岡山大学理事・副学長 (コーディネーター) 伊原木 隆太 岡山県知事 (パネリスト) 太田 昇 真庭市長 (パネリスト) 中村 宏史 高梁市観光協会会長 (パネリスト) 山本 仁 新見市観光協会会長 (パネリスト) 岡山 一郎 山陽町観光協会会長 (パネリスト)
--	--	---

位置図



シンポジウムの状況

「白熱したパネルディスカッション」

「熊本地震で4車線化の必要性が再認識された」、「渋滞による観光客の時間損失は消費に直結する」、「救急搬送の遅れで命の危険性を感じる事がたびたびある」、「日本海～瀬戸内海～太平洋を結ぶ広域連携に4車線化が必要」など、多くの意見が交わされました。

「知事を先頭に！」

知事を先頭に、大いに盛り上がり、参加者が一体となって4車線化の必要性をしっかりと訴えていくことを再確認しました。

「総勢170名が参加！」

岡山米子線の4車線化に向けて多くの方が参加し、「高速道路の4車線化による渋滞緩和が生産性の向上に繋がる」などを学びました。

4車線化シンポジウムの概要

また、去る9月2日（金）には、東京にて、「中国横断道岡山米子線4車線化促進総決起大会（主催：

岡山県、中国横断自動車道4車線化促進岡山県期成会、共催：4車線化の早期実現を目指す国会議員の会等)」を開催しました。

大会の冒頭では国会議員のみなさまから早期4車線実現に向けた激励のお言葉を多数いただきました。

経済団体や運送事業者からの意見発表では、暫定2車線区間は「企業間競争に影響を与える。」「一旦事故が起きると長時間に渡り通行止めになり、トラック運送等、業務に支障をきたしている。」といった意見がありました。

岡山米子線4車線化の早期実現と、効果検証のため設置される付加車線の早期の工事着手を、出席者の声として強く訴えていくため、井元岡山県議会議員が緊急決議の朗読を行い、満場一致を持って採択されました。

その後、伊原木岡山県知事から国土交通省 石川道路局長に提言書が手交されました。

最後には、岡山県知事によるガンバロー三唱が行われ、岡山県民のパワーを感じた一日となりました。

中国横断自動車道岡山米子線 4車線化促進総決起大会を開催！ H28.9.2(金) 岡山県

平成28年9月2日(金)に、中国横断自動車道岡山米子線4車線化促進総決起大会(主催：岡山県、中国横断自動車道4車線化促進岡山県期成会、共催：4車線化の早期実現を目指す国会議員の会、4車線化促進岡山県議会連盟等)を東京の衆議院第2議員会館で開催し、県経済団体、国土交通省、西日本高速道路(株)等から総勢約140名の参加がありました。大会では、**4車線化の早期実現と効果検証のため設置される付加車線の早期工事着手**が緊急決議され、伊原木岡山県知事から国土交通省 石川道路局長へ提言書が手交されました。

主催者挨拶  伊原木 隆太 岡山県知事  小野 泰弘 県議会議員連盟会長	国会議員激励  加藤 勝信 一徳経済副大臣  谷合 正明 参議院議員  橋本 岳 参議院議員  石井 正弘 参議院議員  池田 道孝 参議院議員  小野田 紀美 参議院議員  片山 虎之助 参議院議員  津村 啓介 参議院議員
来賓祝辞  石川 雄一 国土交通省道路局長  前川 秀和 西日本高速道路(株)取締役常務執行役員	緊急決議朗読  井元 乾一郎 岡山県議会議員(期成会 副会長)
意見発表  中島 博 岡山県経済団体連合会代表  小郷 伸洋 岡山県貨物運送(株)専務取締役	閉会挨拶  太田 昇 真庭市長  伊勢田 敏 国土交通省道路局高速道路課長  北村 弘和 西日本高速道路(株)執行役員中国支社長

来賓等の方々

 岡崎 彬 岡山県商工会連合会連合会長

 山内 正彦 独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構理事長

岡山米子線 4車線化促進総決起大会の様子が写った写真が複数枚掲載されている。

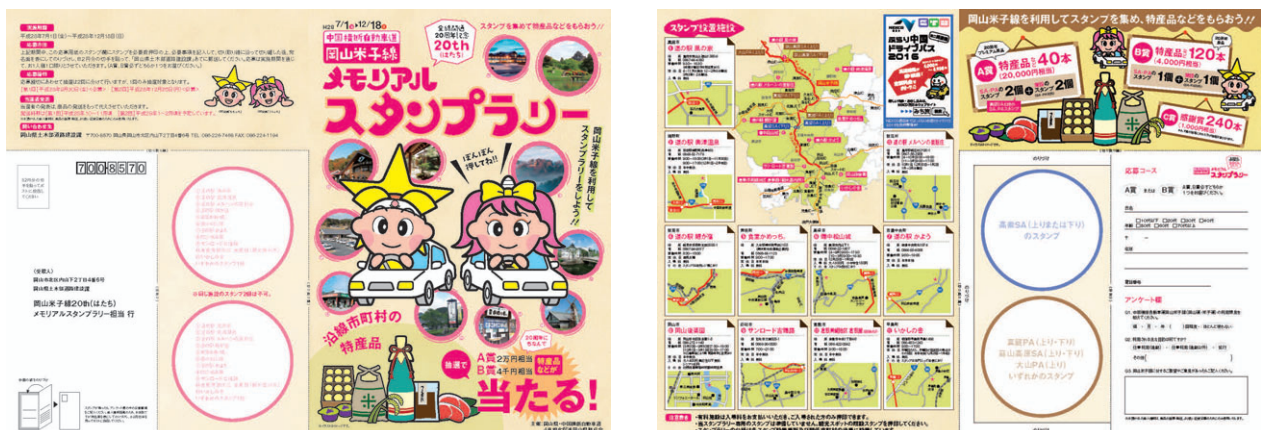
4車線化促進総決起大会の概要

(2) 利用促進キャンペーン

岡山米子線の一層の利用促進を図るため、中国横断自動車道4車線化促進岡山県期成会加盟の沿線市町村や西日本高速道路株式会社中国支社と連携して「岡山米子線 20th (はたち) メモリアルスタンプラリー」を平成28年7月1日から12月18日の期間で実施しています。

対象施設は岡山自動車道の高梁サービスエリア(高梁市)や、後楽園(岡山市)、道の駅風の家(真庭市)など、県内を中心とした15箇所で、そのうち2箇所以上のスタンプを専用の台紙に押して応募していただきます。抽選の上、最高2万円相当の地域特産品をはじめとした素敵な景品が当たります。

開催から約2ヶ月経ちますが、多くのご応募をいただいています。



スタンプラリーリーフレット (左：表面、右：裏面)

(3) 20周年記念イベント

岡山米子線の開通を契機に、毎年、岡山県真庭市蒜山高原で開催されている「海の市・山の市」（真庭市主催）内において、昨年も実施した岡山米子線 PR ブースの設置に加え、今年は 20 周年記念として、ステージイベントも企画しています。

PR ブースでは、岡山米子線の 4 車線化の必要性を訴えるパネル展示の他、利用促進のための沿線市町村の観光パンフレットの配布やアンケート調査を実施します。また、会場では今年新たに作製した PR リーフレットや手提げ型のクリアファイル等の配布も行います。

ステージイベントでは、岡山米子線の開通により、日本海から太平洋が高速道路でつながったことから、鳥取県から高知県までのゆるキャラが大集合して、南北軸の魅力を PR します。



昨年度の実施状況（海の市山の市 2015 真庭）

(4) 情報発信

4 車線化の必要性を広く県民に理解していただくために、PR リーフレットや手提げ型のクリアファイル、コースター、ポケットティッシュなどの PR グッズを作製しました。20 周年記念イベントをはじめ、年間を通じて、既存の沿線市町村のイベント等での PR 活動に活用していきます。

他にも、facebook ページ「岡山米子線はたちメモリアル」を立ち上げるなど、様々なメディアを活用して、岡山米子線の PR をしていきます。



PR用のグッズ（左からクリアファイル、コースター、ポケットティッシュ、卓上のぼり）

中国横断自動車道 岡山米子線 全線4車線化の早期実現を!

岡山米子線には、岡山自動車道の賀陽IC～北房JCT間
米子自動車道の蒜山IC～米子IC間に暫定2車線区間が残っています。

岡山自動車道 4車線化のメリット

渋滞が緩和される!!
平成28年のGWで高梁SA付近で最大1.6kmの渋滞が発生(下記写真)

救急搬送の時間が短縮される!!
事故や工事による通行規制の影響を軽減。

暫定2車線区間利用した緊急搬送件数(真庭消防・新見消防)
350以上

災害時の復旧スピードがUP!!
災害で通行止めになっても、暫定的に2車線で車を通すことができるので、早期に高速道路の機能が回復できる。

安全性が向上する!!

4車線区間は暫定2車線区間に対して、人身事故発生率が0.4倍と低く、事故形態別でも追突事故率が0.3倍と低く(※)安全性が向上する。

人身事故率 (100台あたり) 0.4倍
追突事故率 (100台あたり) 0.3倍

3か年平均

岡山県・中国横断自動車道4車線化促進岡山県期成会

イベントカレンダー 岡山米子線を利用して、各イベントに出かけよう!

イベントは平成28年7月から平成29年3月までのものです。

月	日	イベント	月	日	イベント	月	日	イベント	月	日	イベント
8	8	はんぞき祭り	10	30	秋のいせん祭まつり	8	8	鏡野町大納涼祭	8	13	第11回久米町ふるさと夏まつり
9	25	海の市・山の市				21	21	富ひらめ祭	10	16	たまごまつり～第8回～
10	9	北家コスモスまつり				9	4	鏡野町産業まつり	23	23	そば祭り
11	6	ふるさと岡山もみじまつり				10	29	奥津もみじ祭り	27	27	ぼっぼまつり(真庭市)
2		ひまぎん雪まつり				11	13	奥津もみじ祭り			
3		北家ふり市				2	4	奥津もみじ祭り			
		蒜山のお花まつり									
		閑院桜まつり									

岡山県・中国横断自動車道4車線化促進岡山県期成会

4車線化・利用促進PRリーフレット(左:表面、右:裏面)

おわりに

岡山米子線の4車線化は、中四国地方のクロスポイントとしての本件の優位性を一層向上させるとともに、企業誘致や観光誘客の促進、緊急搬送や災害発生時の迅速な応急活動などに大きな役割を果たすことが期待されています。

早期実現のため、岡山米子線20th(はたち)メモリアル事業を着実に実施し、4車線化に向けた機運の盛り上げや利用促進を図り、自治体だけでなく道路利用者と一体となって、引き続き関係機関へ強く働きかけて参ります。